

令和5年度愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり協議会開催結果

1 開催日時 令和6年2月22日(木)14:00~15:30

2 開催場所 (web開催)

3 出席者

【委員】 齊藤委員、鳥居委員、西岡委員、永井委員、西村委員、小島委員、三浦委員、中村委員、越智委員、河野委員、竹内委員 (11名)

(福田委員欠席)

【事務局】 青陰技幹、三宅係長、川口専門員、川添技師、菊地技師(5名)

4 協議会の内容

(1) 齊藤会長挨拶

- ・この事業も6年目となり、今年度が最終年度となり一つの区切りである。その間に新型コロナウイルス感染症の影響を非常に大きく受け、協議会、代表者会議や研修会と、なかなか思うように進まないところはあったが、6年間を通じて特に高血圧という課題を中心に、多組織と協力しながら、事業展開ができた実感している。
- ・今日は様々な分野や団体からの代表にお集まりいただいているので、忌憚のない御意見を頂戴したい。

(2) 議 事

I 本年度の事業報告について

○事務局説明①

【資料1】

＜愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり事業と取組みについて＞

- ・平成30年度から事業開始、国保と協会けんぽのデータを合わせて県人口の約8割に当たるデータを分析し、地域での健康づくり施策に活用。県民の健康に対する関心を高め、生活習慣改善を促し、健康寿命の延伸、医療費・介護費の抑制を目指す。
- ・各地域での県保健所単位の実践ワーキングチームと松山市保健所、分析ワーキンググループがメンバーとなっているのが代表者会議で、好事例の横展開や情報共有を実施。本協議会は、事業全体の評価の会議体である。
- ・事業開始から前半3年間はデータ分析を中心に現状や課題の把握、後半の3年間は各地域での効果的な保健事業や健康づくり施策の実践を行った。県内20市町において保健所と協働しながらビッグデータ分析を活用した保健事業展開ができることを目指し、コロナでの業務逼迫の影響が大きく予定通りに進まない地域もあったが、今年度は分析ワーキンググループを研修会講師等でより多く関わり、保健所単位での伴走支援をより加速化させた。
- ・6年間のビッグデータ事業の各役割と成果を整理した。本庁は事業推進体制を整備するとともに、人材育成として、各地域で活動できる研修会を開催。分析ワーキンググループにご助言を得ながら、県の健康課題を明確化し、効果的対策を検討し、県民全体に普及啓発を図ることができた。また、ビッグデータ事業で明らかになった高血圧という健康課題に対し、ビッグデータ事業から派生した各種施策が開始された。保健所では、各圏域ごとの健康課題を明確化し、PDCAサイクルに基づく事業を展開し、市町伴走支援してきた。他課と連携しながら、健康づくりの組織体制を構築する市町もこの6年間の事業の中で出てきた。何より、保健所と市町の相談連携しやすい関係がこの事業によりできている。分析ワーキンググループは、事業開始より分析した項目を見える化し、検証、各種保険者に報告書を提供してきた。年々分析項目も多様化し、先ほどご説明したよう、効果的な対策を検討し本庁で発信する体制をとってきた。委員それぞれの専門分野を生かし、保健所を支援することもできた。このように、各役割が協働・連携し事業を推進してきた。
- ・令和2年度から開始したスマートヘルスケア推進事業、産官学連携における循環器病対策、令和3年度に策定した愛媛県循環器病対策推進計画に基づく取組みとも連動して取組みを行っている。産官学連携協定が今年度から、2年間延長となり、令和7年度までの活動予定となった。

- ・昨年度は蓄積されたデータにより経年変化分析し、『健康づくり通信 No3』を発行。
- ・スマートヘルスケア推進事業においては、利用者アンケートの結果より生活習慣改善に寄与する可能性があるため、全県民への健康づくりの施策となるよう、今年度はアプリの成果指標検証事業を実施中。年度末に最終結果が算出される予定。
- ・昨年度産官学連携協定の取組として実施した「愛顔のハート・学び体験」が、今年度から保健所事業として事業化。高血圧にかかわる血圧、減塩、禁煙の3つのアクティビティの体験プログラムを通し、児童・家族の長期的な生活習慣病予防対策につなげることを目的としている。教育機関、市町、保健所等各機関が連携した対策が広がっている。

○委員からの意見等

[ビッグデータ事業について・愛顔のハート・学び体験について]

- ・ビッグデータを活用し、高血圧という健康課題に絞ることができ、ピンポイントで効果的な対策を取っている。各保健所からの知識の普及や人材育成、それから教育への波及といい流れができています。このように持続性のある事業展開をお願いしたい。

○齊藤会長説明

〔報告1〕

<ビッグデータ分析（概要・速報）について>

- ・令和5年度に実施し分析したトピックスを報告。主に①レーダーチャート②国保と協会けんぽを合計した特定健診結果の年次推移③介護保険集計④死亡個票データ。
- ・我が町の状況が一目でわかる、見える化という趣旨で、今年度から各市町の健康状況がわかるレーダーチャートを作成。重点課題の絞り込んだ項目のレーダーチャートであり、65歳の平均自立期間、つまり健康寿命のような概念になる。メタボリックシンドローム、高血圧、糖尿病、特定健診受診率、喫煙、飲酒、朝食欠食の8指標。レーダーチャートが外側に行くほど良好。高血圧が少ない場合は、レーダーが広がる。逆に朝食欠食者が朝食の欠食者が多いと健康上よくないということで、面積が小さくなるという見せ方をしている。よって、広がりがあるほど、市町の健康指標が良好であるということになる。
- ・経年推移をみると、全体的に令和2年いわゆるコロナ禍から若干右上がりである。原因は分析が必要。
- ・メタボリックシンドロームの割合が増えている。
- ・平均自立期間は、男女ともに上位グループと下位グループに少し分かれている。血圧が高い地域の分布と平均自立期間が短い地域分布は似ている。
- ・心不全死亡は2005年から減少に転じているが、心不全という病気が減ってきたというよりは、心不全という死因が別の死因に置き換わってきた可能性もあり。
- ・女性の心不全死亡は非常に90歳以上が多い。比較的若い世代の心不全死亡は1時間未満死亡の急性死が多く、死亡原因が不明ということを反映しているのではないかと。

○齊藤会長説明②

〔報告2〕

<健康アプリ分析について>

- ・健康アプリ kencom のデータを独自に分析。夏は歩数が下がり、春や秋は上がるという機構による歩数周期がある。若い20~30代が歩数が平均して多い。
- ・愛媛県の独自ポイントのみきゃん健康ポイントと kencom ポイントの2種類のポイントがある。ポイントに相関がある項目は、アプリ内記事閲覧や記録関係である。ポイントを多く獲得している人は健康に関心があり、色々な情報を収集したり、活動していることがデータから見えてくる。

○委員からの意見・現状報告等

- ・心不全の死亡率のピークアウトと、若い世代の心不全死亡があるということに非常に興味がある。ピークアウトは老衰という死亡診断を書くようになったからでは。
- ⇒（齊藤会長）お話のとおり、心不全診断は、現在は老衰に置き換わってきていると思っるところ。若い世代の心不全死亡の原因は不整脈等が言われている。若い世代の突然死は社会的にも課題となる。

II 次年度事業について

○事務局説明②

〔資料2〕

<次年度の取組み案について>

- ビッグデータ事業は平成 30 年度から令和 5 年度までの特枠事業として、健康づくりの中心的位置づけで実施し、地域における健康づくり運動の推進、食育月間、食育の日に係る普及啓発など総花的な形で事業を実施してきた。令和 5 年度末でビッグデータ事業は一区切りとなるが、今後もビッグデータ分析結果を県の各種事業に活用するため、県民健康づくり運動事業費と統合しビッグデータ事業を恒久的に実施していく方針とした。
 - 令和 4 年度の県民健康調査でも、働き世代の健康課題が非常に重いことが浮き彫りになった。協会けんぽや企業の健康保険組合等の保険者に係る被保険者がいずれは国保の被保険者になるため、既存の国保事業の網にかからなかった働き手世代の介入を、ビッグデータ事業の中で検討し、職域事業を進めたい。
 - 平成 19 年に地域職域推進部会を愛媛県に設置し、部会は平成 30 年以降未開催。その代わりにビッグデータ事業を推進してきた。2つの会議体は、ともに斎藤会長が会長を就任。会の構成団体も共通の委員が多いため、ビッグデータ事業に参画していただいている組織、学識の委員を地域職域推進部会に加入いただき、ビッグデータ活用県民健康づくり協議会を統合し、地域職域推進部会で事業を推進したくご承認をいただきたい。
 - 次年度改めて、地域職域推進部会の部会業務にビッグデータ事業の企画実施、取組推進に関する項目を部会の業務として追加する承認をいただきたい。
 - スマートヘルスケア推進事業の次期事業は、県民全体への実施を考えている。既存の市町の健康ポイント事業をアプリ内に取り込み市町や健康保険組合の保険者と連携した事業を進めたい。
- ⇒令和 6 年度事業について、ビッグデータ活用県民健康づくり協議会を地域・職域推進部会に統合する委員の承認を得た。